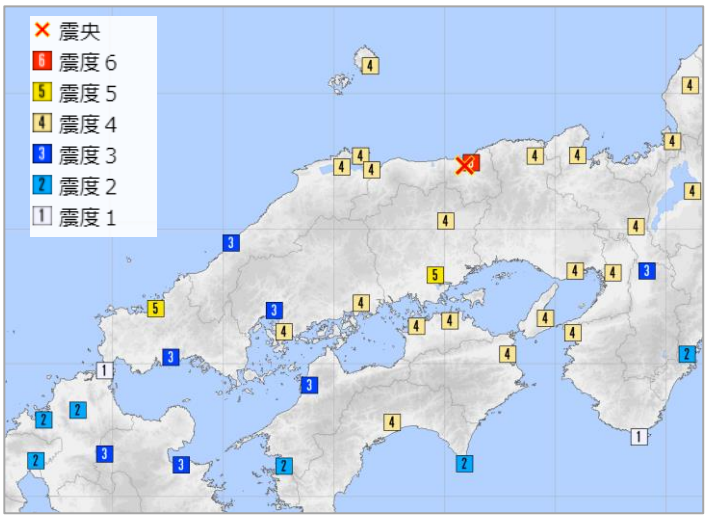
鳥 取 地 震　【昭和18(1943)年9月10日】

■地震の概要

9月10日午後5時36分、鳥取県気高郡豊実村付近（現、鳥取市野坂付近）を震源とする大地震が発生しました。地震の規模を表すマグニチュードは7.2、震源はきわめて浅い直下型の内陸地震でした。現在では、この地震は鹿野-吉岡断層の活動に伴い発生したことが明らかになっています。



本震による各地の震度分布【気象庁震度データベースより】

鳥取市は震度6の激震を記録し、震度5の強震域は岡山平野や山口県萩市にまで及んでいます。昭和18年から21年にかけての終戦前後に、わが国で4年連続発生した1,000人以上の死者を出した4大地震（他は東南海地震、三河地震、南海地震）の最初の地震でした。この地震の半年前の3月4日、5日にも鳥取県東部では軽傷者11人、建物倒壊・半壊663棟などの被害を出すM6前後の地震が続発しており、これらは鳥取地震の先行地震活動と考えられています。

■被害の状況

この地震による被害数は資料によって異なります。地震発生から約1週間後の数字が載る東京帝国大学地震研究所の報告書（下表）では、死者1,083人（行方不明含む）、重軽傷者3,259人、家屋の全・半壊13,643戸などとなっています。一方、地震発生から1年経った昭和19年9月に刊行された『鳥取県震災小誌』では、死者は1,210人（行方不明26人含む）、負傷者3,860人、全壊家屋13,295戸、半壊家屋14,110戸に及んでいます。

死傷者の大部分は倒壊家屋の下敷きになったものであり、被害が大きかったのは人家の密集した鳥取市街地、次いで気高郡内の鹿野町、大正村、湖山村などでした。特に、千代川や袋川などの沖積地の軟弱地盤地帯で家屋倒壊率が高くなっています。また、地震発生が夕食準備の時間帯であったために、倒壊家屋から火災が発生し、約300戸

■鳥取地震による被害　（9月18日現在）

市・郡（区分は当時）	人的被害（人）			家屋被害（戸）		
	死者	重傷者	軽傷者	全壊	半壊	火災
鳥取市	854	544	1,988	5,754	3,182	全焼250、半焼16
岩美郡	56(34)	12	137	694	916	
八頭郡	49	11	15	3	28	
気高郡	120	100	450	1,014	1,703	全焼1
東伯郡	4	2		20	329	
計	1,083(34)	669	2,590	7,485	6,158	全焼251、半焼16

※死者欄の( )は行方不明者数
【出典：東京帝国大学地震研究所彙報「昭和18年9月10日鳥取地震の被害」】

が全・半焼しています。さらに、翌 11 日夜は豪雨となり、倒壊家屋の浸水や負傷者収容のテントの水没などが発生しました。特殊な事例としては、岩美郡岩美町荒金の岩美（荒金）鉱山では、鉱泥を貯めていた堰堤が地震で決壊し、直下の朝鮮人労働者宿舎と荒金集落を襲い、朝鮮人 28 人と日本人 37 人の 65 人が犠牲となりました。

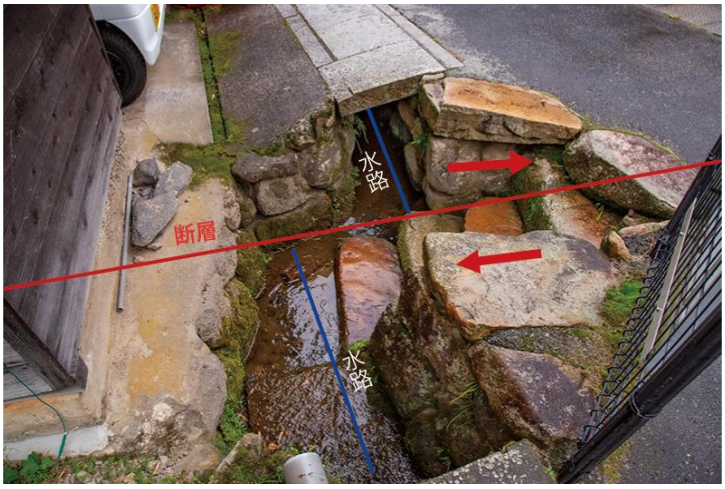
土木関係では、道路は液状化現象で路面沈下や亀裂を起こし、山腹の地すべり、崩壊、土石による埋没、決壊も発生し、鳥取県東部の道路は多くが途絶しました。さらに落橋、橋脚や橋の沈下など、鳥取市付近の橋は全て破損し、堤防や護岸の崩壊も多数発生しました。鉄道は、山陰本線と因美線は沿線の至る所で地盤の陥没、線路のひずみ、トンネルの崩壊などが発生し各所で不通となりました。

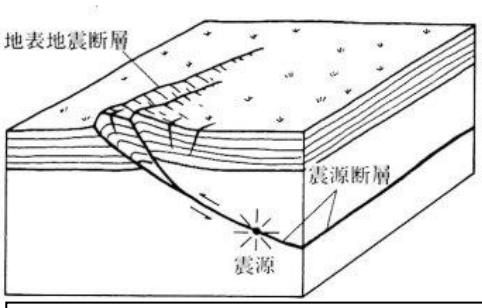
■屈折した水路が示す地表に現れた断層

・陸域の浅い所の地震は、陸のプレート内部の活断層がずれ動いて発生します。地下で地震を発生させた断層を「震源断層」、地震の時に断層のずれが地表まで到達して現れた（地表にずれが生じた）ものを「地表地震断層」あるいは「地震断層」と呼んでいます。

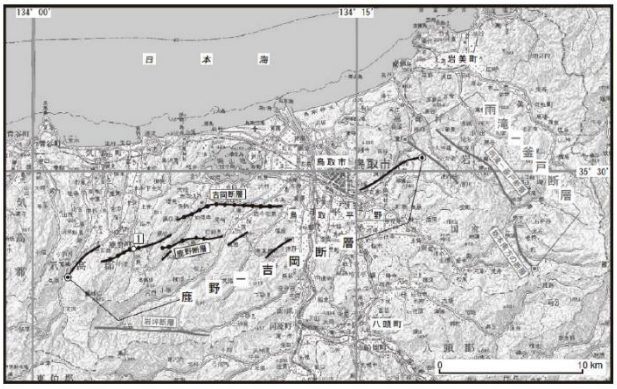
・政府の地震本部によれば、鳥取地震を引き起こした活断層の鹿野-吉岡断層は、鳥取市鹿野町から吉岡温泉町を経て鳥取市滝山に至る約 26km とされ、地下に潜む震源断層の長さもほぼ同程度と推定されています。鳥取地震では震源がごく浅かったため、鹿野地震断層（約 8km）と吉岡地震断層（約 4.5km）の二つの地表地震断層が現れました。

・地表に現れた鹿野地震断層のずれを今もはっきりと確認することができる場所があります。鳥取市鹿野町末用の民家の前を流れる水路は、元は南北にほぼまっすぐ流れていましたが、断層を境にずれ、それは今も屈折する水路としてそのまま残されています。地面が横にずれる断層を「横ずれ断層」と言いますが、鹿野地震断層は断層線を挟んで向こう側が右に動いているので「右横ずれ断層」になります。鹿野地震断層では最大 1.5m の横ずれがありましたが、上下の変位もあり、断層の西半分では北側が最大 75cm 落ち、東半分では南側が最大 50cm 落ちるという珍しい「蝶番（ちょうつがい）断層」となっています。屈折水路の箇所でも、水流の落差で北側が落ちていることが確認できます。この部分の水路は、鹿野地震断層が動いた痕跡を観察できる場所として、鳥取県の天然記念物に指定されています。





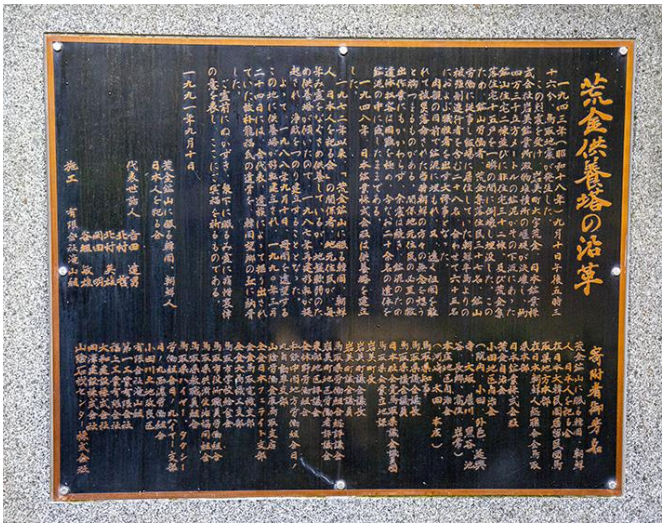
地震断層と震源断層
松田時彦「活断層（岩波新書、1995）」より



災害の記憶を伝える

岩美郡岩美町荒金の岩美（荒金）鉱山では、鉱泥を貯めていた堰堤が地震で決壊し、直下の朝鮮人労働者宿舎と荒金集落を襲い 65 人が犠牲となりました。

「荒金供養塔」
（鳥取県岩美郡岩美町荒金）



「荒金供養塔の沿革」